

げ後のNBA年間リーグパスの2.4倍となり、3万1000円以上も割高だ。

値上げ前の料金比較（同）

月額
年額

【日本】楽天NBAリーグパス
4,500
54,000

【米国】NBAリーグパス（プレミアム）
3,409
22,242

差額
1,091
31,758

NBAリーグパスは米国以外でも契約可能だが、日本、イラク、イラン、北朝鮮、キューバ、コソボ、コンゴ民主共和国、シリア、ジンバブエ、スーダン、ソマリア、中国、ニカラグア、ベネズエラ、ベラルーシ、リビア、ロシアでは契約できない。つまり日本ではNBA Rakutenを契約するしかNBAの全試合を視聴する方法はないのだ。

ただ、楽天モバイルで「Rakuten最強プラン（データタイプ含む）」を契約しているユーザーは、10月20日からリーグパスの利用が無料に。楽天は携帯電話事業で巨額の赤字を計上しており、回線契約獲得のために人気上昇しているNBAのコンテンツを利用したことになる。

自社サービスの利用者に無料提供するのはともかく、それ以外のユーザーに米国のリーグパスよりもはるかに高額な料金を設定する手法がNBAファンの反発を招いたようだ。

文：M&A Online

関連記事はこちら・地域一体で「福島ファイヤーボンズ」のB1入りを目指す！西田創福島スポーツエンタテインメント社長に聞く・楽天が携帯事業で苦戦しているのは「平成のビジネス感覚」だったから